

ノリ養殖環境速報 KH-01-01 (播磨灘)

令和元年11月1日 発行

調査年月日：令和元年10月30、31日

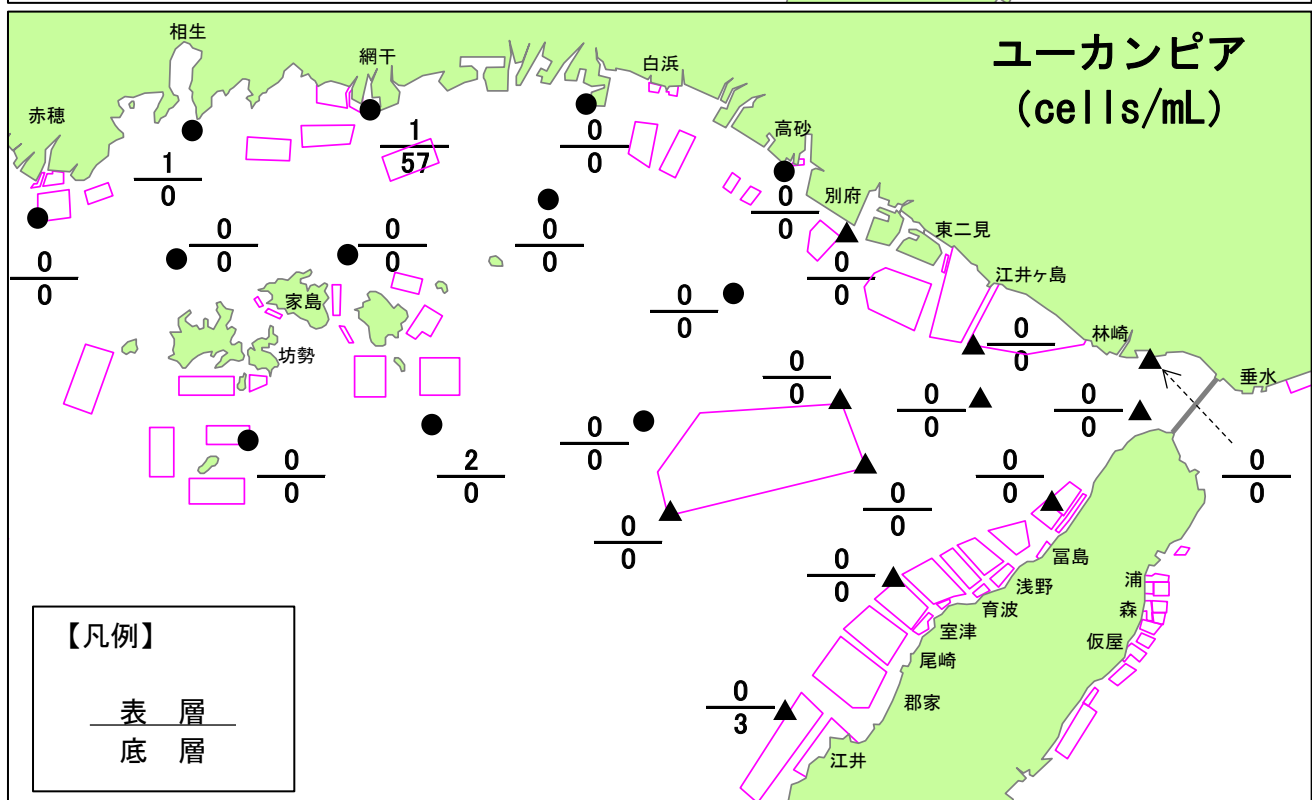
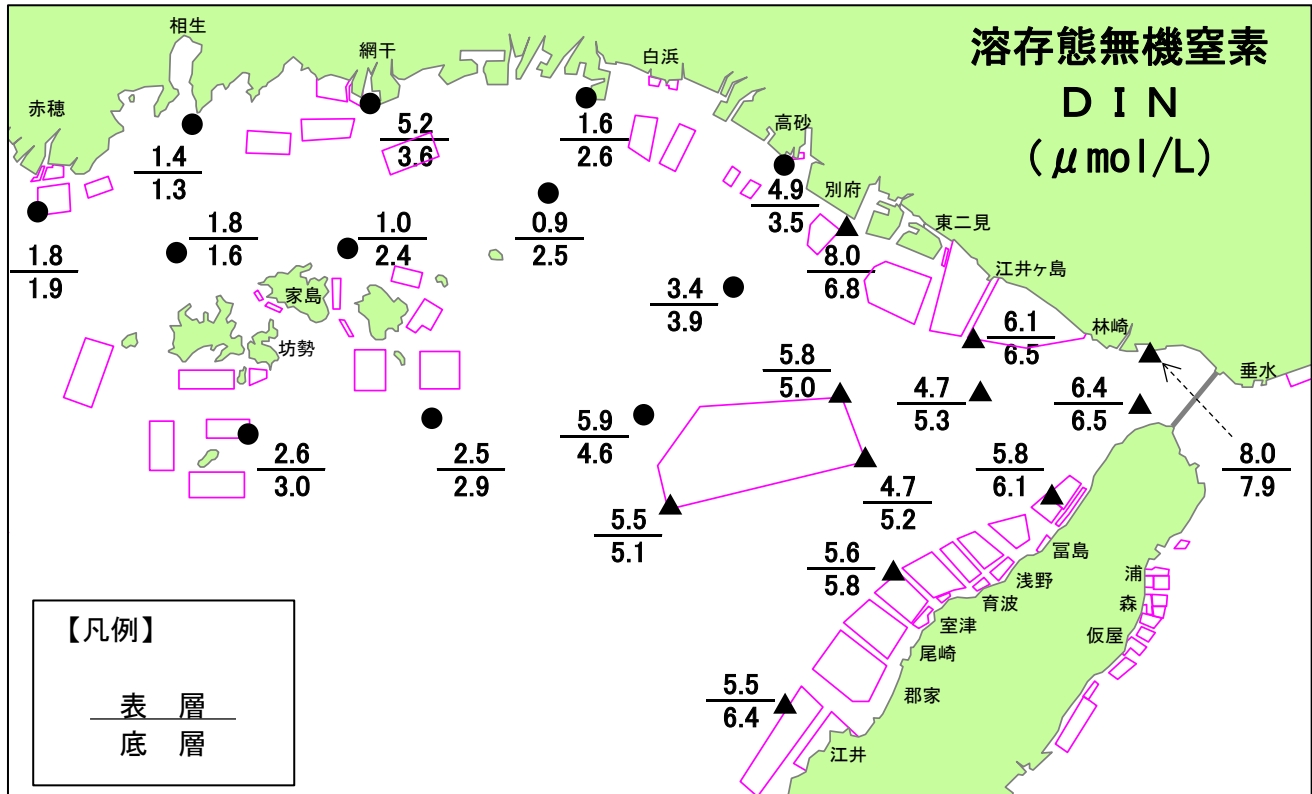
[調査箇所は地図上に●(西部)および▲(東部)印で表示しています。]

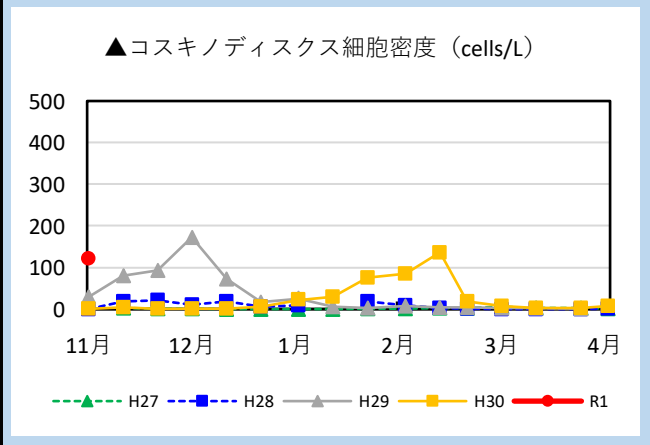
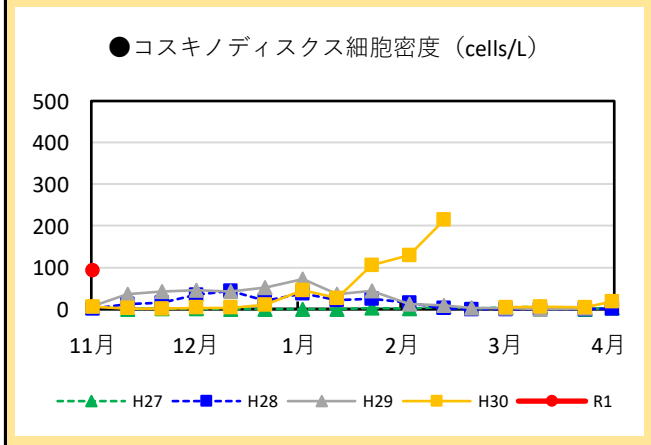
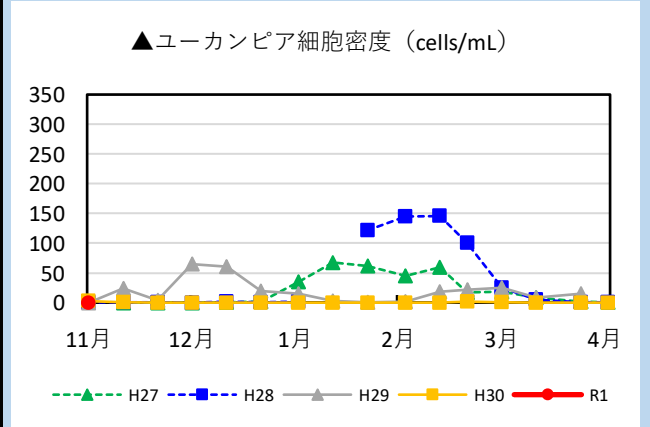
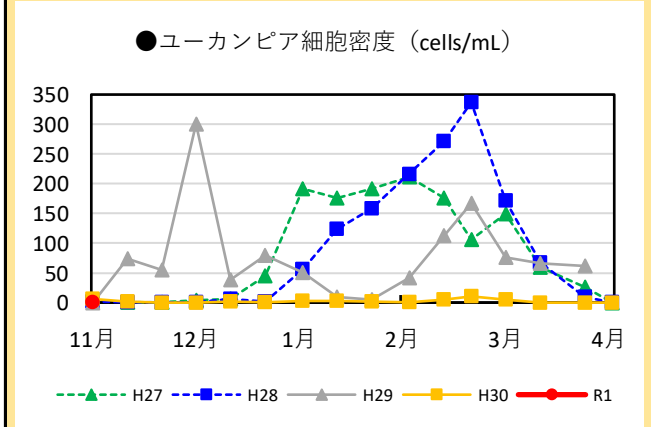
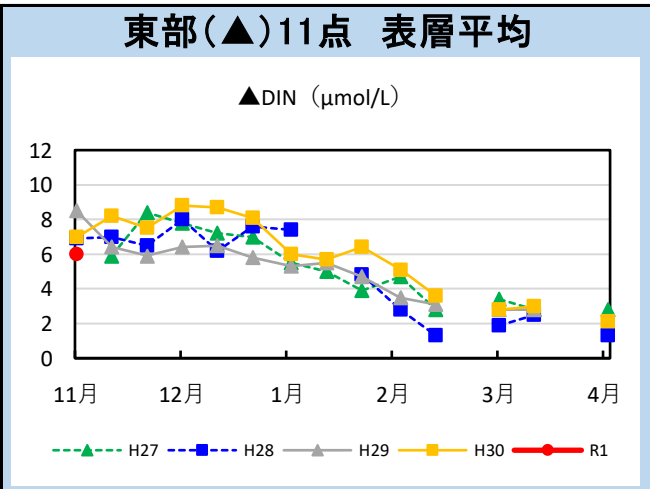
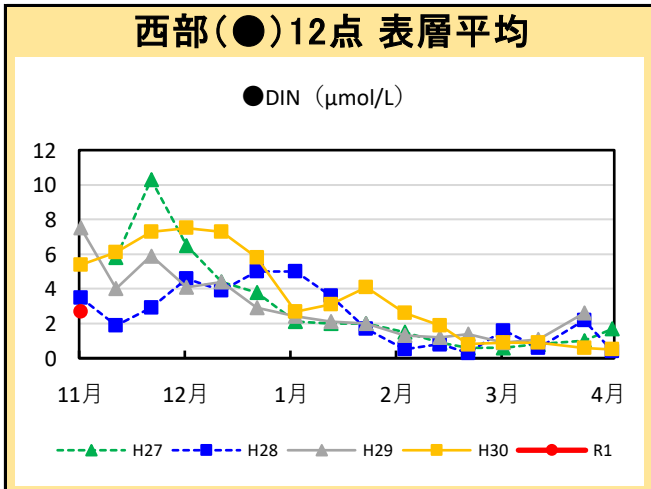
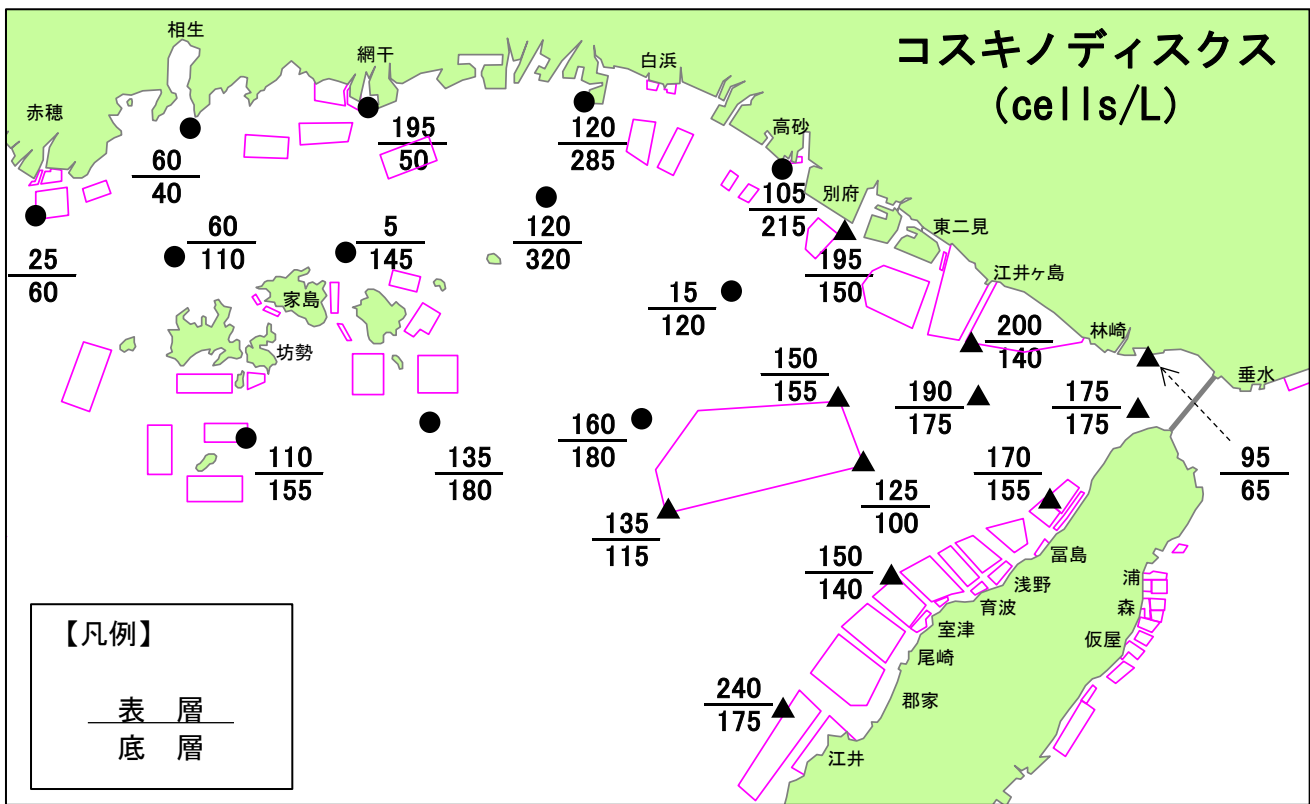
概況

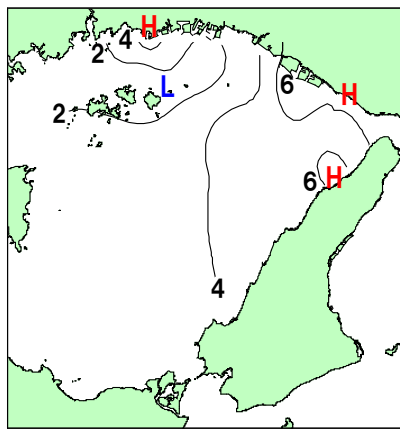
播磨灘北部(調査海域)の表層DIN濃度は、西部では1~5.9 $\mu\text{mol/L}$ の間、東部では4.7~8.0 $\mu\text{mol/L}$ の間で推移しています。家島諸島北部海域では、1 $\mu\text{mol/L}$ 前後となっています。

全域で、小型珪藻(キートセロス、スケルトネマ)の発生が少なくなっています。また、先月に引き続き、大型珪藻のコスキノディスクスワイレシーが多く確認されています。ヌタの発生や栄養塩濃度の低下にご注意下さい。

水温は、白浜以西では21.6~23.0 $^{\circ}\text{C}$ 、家島諸島周辺では22.1~23.1 $^{\circ}\text{C}$ 、江井ヶ島・高砂周辺で22.3~22.7 $^{\circ}\text{C}$ 、明石海峡付近並びに西浦では22.1~22.3 $^{\circ}\text{C}$ 、鹿ノ瀬周辺では22.3 $^{\circ}\text{C}$ でした。



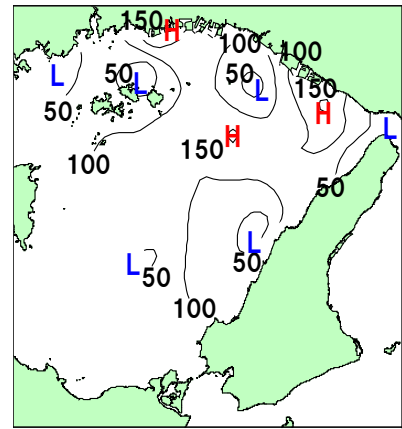




DIN濃度(μmol/L)



ユーカンピア(cells/mL)



コスキノディスクス(cells/L)

令和元年10月30、31日の水平分布状況(表層、実測値)

(Hは濃度又は密度が高く、Lは低いことを示しています。)

播磨灘における今後の栄養塩等に関する動向見込み

播磨灘北部の表層のDIN濃度は、概ね4μmol/L以下でした。ただし、家島諸島北側では、概ね2μmol/L以下となっています。大型珪藻のコスキノディスクスワイレシーは播磨灘全域にわたって確認されており、明石、姫路沿岸部及び鹿ノ瀬周辺で多く確認されています。ユーカンピアは散見される程度でした。

大阪管区气象台の週間天気予報では、降水量は平年より少ないとされていますが、例年の傾向を勘案すると、今後の栄養塩濃度の推移は現状維持～やや上昇と考えられます。

週間天気予報 気象庁11月1日10時32分発表 ※気象庁ホームページより転載

向こう一週間の近畿地方は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や湿った空気の影響で雲が広がりやすいでしょう。

最高気温、最低気温はともに、平年並か平年より高い見込みです。

降水量は、平年より少ないでしょう。

その他の情報

- ・岡山県の情報は10/24に、香川県の情報は10/29に更新されています。
- ・香川県の調査については、以下のURLから参照してください。

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/suisanshiken/jyouhou.htm>

【参考】栄養塩の単位: μmol/L = μg-at/L = μM

【今後の予定】

- ・令和2年4月上旬まで毎月3回程度(上・中・下旬)の発行を予定しています。
- ・次回は令和元年11月12日頃に発行する予定です。

※この情報は、水産技術センターホームページ (<http://www.hyogo-suigi.jp/>) でもご覧いただけます。